

卒業論文体験談

(龍溪ゼミ 修士一回生 内手弘太)

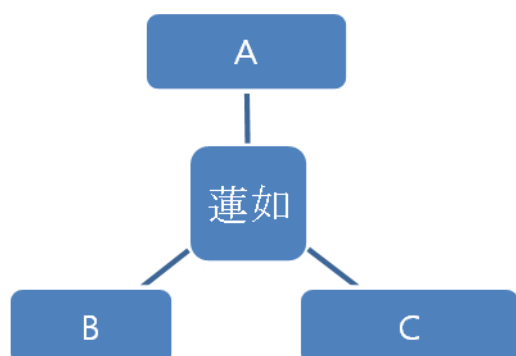
私は、仏教史学科に所属していたために少し異なるかもしれませんが、題目は蓮如上人についてでした。まず、蓮如上人というざっくりと大きなテーマを立てたのち、そこから集めた資料をざっくりと以下のようにわけ、蓮如上人のどの部分を主にしてやるか考えました。

6月から夏休みにかけて

6月	<ul style="list-style-type: none">•1、卒業論文仮題目の決定（受け幅を広く持つ）•2、とにかく本を読む。
7月	<ul style="list-style-type: none">•1、資料を集める。•2、先生や先輩に相談し、題目を明確にする。
夏休み	<ul style="list-style-type: none">•1、資料集め。資料整理。•2、題目の決定（夏休み明けすぐに題目提出あり）

※1、この時期は、さまざまなものが重なり、卒業論文どころではないという人が、多々おられると思います。そういった中で大変だとは思いますが、ゼミに来たついでに本を一冊借りるなど、空いた時間を有効活用して、卒論作成のリズムを作りましょう。

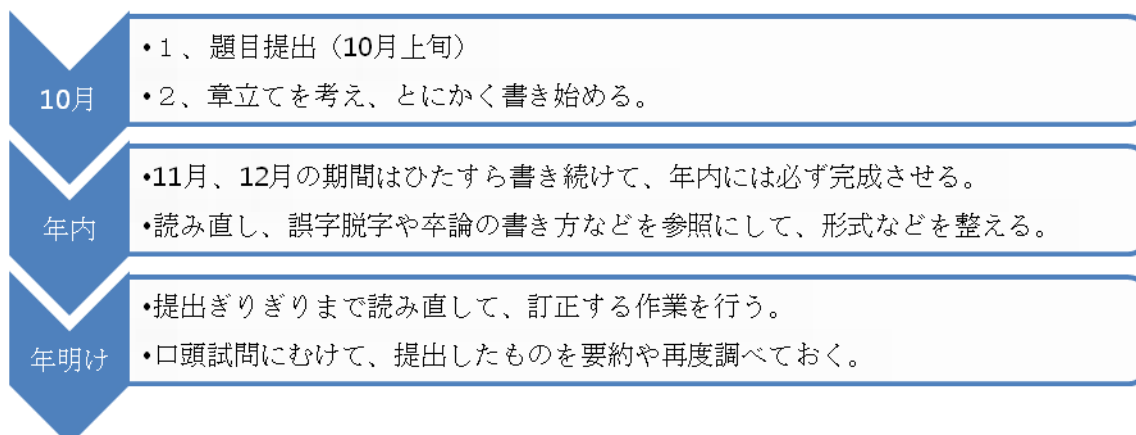
※2、資料集めは出来るだけ早くしておく。10月以降題目を出したのちは、資料を使う人が増え、自分のほしい資料が手に入らないこともありますので、早めに 資料は手元に置いていたほうがいい。



私は史学科に所属していたこともあり、時代背景というものを中心に据え、さらに時代背景をやるにしても、まだ多くの分野があるので、そのなかで文明の一揆を中心として最終的なテーマを「蓮如思想と一向一揆」とした。（題目提出 までに）

このようにテーマを定めたのち、どのように構成していくか。

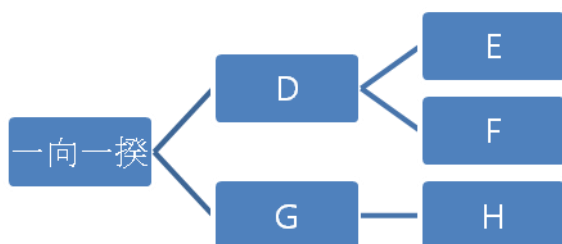
10月から口頭試問にかけて



※3、バックアップはしっかり取っておく。思いがけないことが起きることもあるので、USBにいくつか保存しておく。（私の場合は3つに保存しました）

※4、書き始めは、決して序章からにこだわらず、かけるところから書いていく。卒業論文を書くにあたって、やはり毎日でも書き続けることが重要であるとおもいます。

※5、誤字脱字のないように何度も何度も読み直すこと。



左図のように一向一揆に趣を置く中で、そこに
関わりがあるであろうものをピックアップし
て、それらのどのような面が一向一揆へとつな
がったか考えていった。一つの分野においても
そこには見方によって様々な問題点があげられ
るので、絞っていった。

このような大筋の流れを立てた後、一つ一つの分野ごとにまとめ、その後序論を書き、文章をつなぐ作業を行い、卒論を仕上げた。

重要な点→1、**資料を見極めること**。同じ分野の論文や資料であっても、書いた人の立場や思想によって、資料の性格は変わるものです。資料をうのみにするのではなく、自分自身の意思をしっかり持つことが大事。またそのため様々な資料に目を通すことが重要です。

2、**正しい言葉の意味を調べること**。真宗学における専門用語、仏教用語をしっかり辞書を用いて調べる。言葉の意味をしっかり押さえなくては、論文は書けません。

3、**こまめに書く**。12月から書く人も多数いますが、やはりこまめに書くことをおすすめします。卒業できればいいやととりあえず書けばいいかもしれませんが、それによって卒業できなかった人もいます。毎日100字でもいいので、しっかりとした計画をもって書くほうがいいと思います。

4、**迷ったらすぐに先生や先輩に相談する**。